

姫路医療センターさくらんぼクラブ通信

さくらんぼクラブは、がん患者さんとご家族のための会です

2010年9月 第10号

いつもと違う場所でのさくらんぼクラブ

猛暑続きの毎日・・・8/27 のさくらんぼクラブは今回のみ、病院の都合で広い方の会議室に場所を移し開催しました。参加者が少ないのでは？との心配もなんのその、10名もの方が集まりました。初めて参加の方は4名、そのうちの一人は小学生！いつも参加している方の娘さんです。最年長の方は80歳だったので、今までになく幅広い年齢層でした。また、途中からは実習で来られていた他院の看護師さん3名も見学ということで加わって下さり、恒例の気持ちをほぐし笑顔になれるすごろくも行き、にぎやかな会となりました。

今回は、秋の花を題材に絵手紙(ハガキ)を描きました。素敵に仕上がった絵葉書を他院で入院中のお友達へ届けるという方もいました。小学生の方も楽しみながら、時間を過ごすことができました。

毎回行っているこれらの作業は、必ずしなくてはならないというものではなく、手作業をしながらの方が話しやすいのでは？との配慮から始まったことで、するかどうかは本人の自由です。毎回無償で題材を用意して下さる方には、感謝してもきれません。長期間の入院を経験された方からは、「手作業をしながらお話をするという機会は、入院している病棟にこそ必要！」という意見がありました。病院にはボランティアさんがいるそうですが、実現させようと思うと、残念ながらこれはなかなか時間がかかること、のようです・・・。

検査続きで精神的にも肉体的にも辛い。検査結果をその都度聞くことになり、数値が良かったらうれしいけど、悪かったらひどく落ち込んでしまう。



数値が悪くても身体は元気！私は旅行にも行っていますよ。

検査結果をいちいち深刻に受け止めるより、今の体調がよかったらそれでよし！と思いたいです。

通院日は暗くなりがちだったけど、最近は夫と二人きりのデートの日だと思って楽しんでいます。

今後のさくらんぼクラブの予定

2010年9月24日

2010年10月22日

2010年11月26日

2010年12月24日

2011年1月28日

2011年2月25日

2011年3月25日

いずれも10:00～12:00ごろまで。

姫路医療センター2階の第2会議室でお待ちしています。

今まで平和に暮らしてきたので、病気になる今、あまりにも環境が変化してしまい、いろいろ考え込んでしまいます。



初参加の方からよく聞く言葉です。そして、時には涙を流しながら、胸の中の想いをたくさん話されます。聞いている人たちは病気の部位・病歴・治療方法はひとそれぞれ違うのですが、気持ちはとてもよくわかります。今回の集まりでは、初参加の患者さん同士が同じ部位を患っていることもあり、薬や治療方法の共通点など、情報交換ができてよかったです。そしてその奥さんは、「支える立場が同じで、うれしい。」と。部位は違っても主治医が同じ、ということもよくあり、古株の患者さんが医師との付き合い方を伝授するなんてこともあります。

さくらんぼクラブ通信は、さくらんぼクラブ会員である患者さんやそのご家族の体験・言葉で構成され、姫路医療センターがん相談支援室が発行しています。

テレビの中の「がん」について ～ さくらんぼクラブメンバーからの投稿についての討論～

今年も 8/28,29 にわたり、読売テレビで 24 時間チャリティーテレビが放送されました。これまでなんとなく見ていたこの番組、今年は自分の心境の変化からなのか、ちょっと疑問に思いました。

例年通り、病気の大変さ、また人口の多さからか、ドキュメンタリーやドラマの形で「がん」闘病について、たくさん放送されていました。ドラマチックな展開だからこそ、放送に値すると判断されており、いわば「特別なパターン」なのだと思えます。しかし…。

例えば、自分の治療を後回しにしてお腹の中の赤ちゃんをはぐくみ、出産後治療の甲斐なく亡くなった女性のケースについて、「自分の命を犠牲にして」の美談となっていました。世間には悩んで悩んで悩み抜いて、産みたくても産む方を選ばず、治療のために泣く泣く赤ちゃんをあきらめた人も沢山いて、その人たちはどんな思いで放送を見ただろうかと思ってしまうのです。我が子の命を絶つてまで自分が…と、罪悪感で再度傷ついたのではないのでしょうか。そして、手遅れになってしまうことがわかっている、その選択を受け入れなくてはならなかった家族の想いは…と思うと、たまらないものがあります。

また、余命わずかと宣告され、無治療を選んだ女性のケースに対して、治療を受け続ければ良い方向へ向かう可能性のある人が、放送の影響を受けて「無治療」を選んでしまったとしたら？

「がん」に関わっていない人が見れば「感動のお話」でよいのでしょうか。「がん」の方が見ても、励まされたという人は大勢いることとします。でも、私は見ていて胸が痛くなってしまいました。

がんに関しては多くの番組が放送されていますが、さくらんぼクラブの参加者はどんなふうに思っているか、聞いてみました。

Aさん



24 時間テレビは見る気がしなかったので見なかった。以前自分と同じ病気の人々のドキュメンタリー番組があり、その時は入院中だったので、同じ病気の患者仲間と一緒に見た。実際の闘病生活とあまりにもかけ離れている内容で、その後討論する気分にもならず、以後この類の番組は真剣に見ないし、見たとしても感想を語るに値しないと思っている。

Bさん



テレビを見た直後は全く同じ意見で怒りさえ出てきた。私自身、子供 2 人の母親であり、患者本人である。ついつい自分に置き換えて見ていたから、残された家族の事を考えていると、この行動はとれないだろうと思う。美談にしないと視聴率は取れないだろうし、話題にもならないとは思いますが、テレビ局には抗議や、問題視する手紙など届いていないのだろうか。

Cさん



テレビの中の「がん」の扱いと自分が実際経験した「がん」の扱いはずいぶん違う。脱毛があらかじめわかっている女性患者の多くは、治療が始まる前に髪の毛を短くカットする。でもテレビに登場する女性患者では、必ずといっていいほど長い髪の毛がごっそり抜けていくシーンが画面いっぱい。これっておかしい！24 時間テレビも所詮、「お涙ちょうだい」で脚色しすぎ。深く考えない様になっている。

皆さんの考えを聞いて…

テレビの中のお話なのだから、割り切って考えれば良いのかな…と。また、視聴者の中の患者自身の立場で、真剣に自分と照らし合わせ、考えながらテレビを見ている人は少数なのかな…と思う気持ちもでてきたので、さくらんぼクラブの仲間と語り合い、気持ちが軽くなりました。

また、この話をしている時に、「著名人が簡単に『私のがんを克服しました』と宣言しているが、その方が不快である」と語る人もいました。がんは完治することも多い病気ですが、油断は禁物。有名人の言葉には多大な影響力があるのですから、軽はずみに言わないでほしいとのご意見もありました。